

「小河内」便り 第25号 平成25年9月

特定非営利活動法人 小河内Oプロジェクト（理事長 渡辺眞作）

連絡所 〒731-1171 広島市安佐北区安佐町小河内4579-3

安佐小河内集会所内

TEL&FAX 082-835-0831

ホームページURL <http://ogauchi.web.fc2.com/>

会員の皆様、住民の皆様お元気ですか。

梅雨明け後の記録的な少雨、各地で発生した経験したこのないような豪雨、40度を超えるような猛暑が続いた今夏を気象庁は「異常気象」と位置づけ、発表しました。日本列島上空の高気圧の影響で海面水温が平年より高くなったことによる影響だそうですが、専門家は地球温暖化がこの異常気象に影響した可能性を指摘しています。経済を優先した人間の際限なき欲望の表れかも知れません。

こうした「気候変動」に、我が国は少子高齢化、人口減少が進み「人口変動」が東京への一極集中と地方の過疎化を招き、地方では生活の根幹を揺るがす深刻な問題になっています。

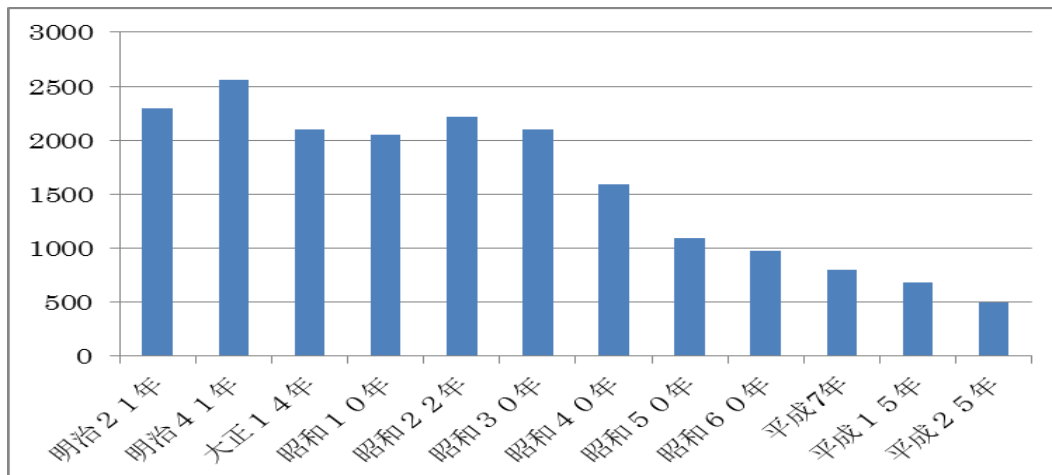
目次

小河内の人口	P 1
小河内の歴史について	P 2
理事の担当	P 3
年度内のツーリズムについて	P 4
編集後記	P 4

小河内の人口推移（500人を切る）

2000人台いた人口が昭和30年、40年の高度経済成長以降人口が急減した。

平成25年8月末、252世帯、人口は498人、高齢率52・2%、14歳以下の子供数18人（3・4%）、1人世帯数106（42・1%）、2人世帯数85（33・7%）



小河内の歴史について

1・最初に小河内に人が住みつき、生活を始めた時期について

「安佐町の姿」(安佐町新しいコミュニティづくり協議会発行)によると、旅人や狩人が通り過ぎたかも知れないが、安佐の地に人が住みつき生活を始めたのは1200年～1300年前と推定している。

西暦700年～800年と言えば、奈良～平安時代にあたる。

又、郷土史研究家であった故古川重行氏の資料「沢田」によると、小河内に人が暮し初めたのは、源平合戦に敗れた平家の落武者3人がこの地(現在の安佐地区)を訪れ、その内の1人が小河内「沢田」に住み着いた(生活を始めた)、と言う。時に寿永3年(1184年)で、今から800年以上も前のことである。平家が滅びた頃である。平家の落人が平家の守護神とした「明神さん」がこの近郷(特に沢田、高野、溝手)には多くあり、これにまつわる伝説も多い、と記している。

2・小河内の地名について

小河内の地名は、上記「安佐町の姿」によれば、時の牛頭山城主、小河内弥太郎の名をとって「小河内」と名付けられたという説が有力である、と記している。小河内弥太郎は銀山城から6歳の時来城、18歳の時、吉木城主笠間氏に諮られ城が炎上、家臣の進言により、自害している。

古川氏の説によれば(安楽寺縁起によれば)加賀の城主富樫正親の三男富樫又左衛門が牛頭城を築き、小河内の地に定住、所在の名をとって小河内氏となったと記している。

富樫又左衛門が定住したときには小河内の地名は既にあったので、小河内弥太郎の名をとってつけたとする説が正しいようだ。



小河内弥太郎を祀る殿之城霊神社



牛頭山頂上(牛頭城跡)

3・時代変遷(「安佐町の姿」より)

戦国時代 小河内は、武田氏及び熊谷氏の支配下であり、後に毛利氏の支配下となる。

1541年 熊谷氏が武田氏に離反、これに怒った武田氏が高松城を攻撃(横川合戦)武田氏が滅び、熊谷氏の勢力下に。武田氏に加勢した7人の小河内氏は全員討死、滅亡した。

1555年、毛利氏が厳島合戦に勝利、次第に勢力を増し、小河内氏は久地と共に毛利氏に属す。

1600年、西軍に属した毛利氏は関ヶ原の戦いに破れ徳川幕府成立(福島、浅野)

1868年 明治維持

昭和30年 飯室、鈴張、小河内、久地、日浦の5か村が合併、安佐郡安佐町に

昭和46年 安佐郡安佐町は広島市に編入

昭和55年 広島市の政令指定都市になり、安佐北区安佐町小河内地区となる。

理事の担当

事業	内容	担当理事
理事長	代表、全体統括	渡辺眞作
副理事長	理事長補佐、部門間調整	安福孝昭
①農地保全等支援事業	小河内集落共同取組み	(正) 岡田孝昭
②中山間地等直接支払制度支援	資料作成等	(副) 増田正幸
③ I ターン・U ターン促進事業	農村体験ツーリズム	(正) 中川徹也 (副) 迫田 勲 (副) 下本静恵
④都市・地域住民との交流事業	ハウス食品、白島商店会	(正) 鈴木師正 (副) 岡田孝昭 (副) 下本静恵
	地区外各種イベント参加	(正) 安福孝昭 (副) 迫田 勲
⑤情報発信事業	ホームページ管理、運営	(正) 中野英治 (副) 迫田 勲
	小河内便り、広報、情報発信	(正) 迫田 勲 (副) 中野英治
⑥地域農林水産物の加工販売事業	農産物加工、6次産業化、農産物市等	(正) 中川俊雄 (副) 佐々木秀孝
	炭焼き事業(弥太郎君等)	(正) 原本幸 (副) 安福孝昭
⑦その他、法人の目的を達成するために必要な事業	名簿管理、情報発信	(正) 迫田 勲 (副) 中野英治
	視察研修、地区内各種講習会	(正) 原本幸 (副) 安福孝昭
⑧総務関係	定款、会議、助成金、表彰、対外折衝	(正) 迫田 勲 (副) 安福孝昭 (副) 中野英治
⑨事務局	会員管理、金銭管理、活動決算書、文書受発信、什器備品管理、事務所管理等	(正、事務局長) 中野英治

スズメハチの巣(今年は特に多く見かける)



年度内のツーリズムについて

開催日	名称	内容	備考
平成25年9月21日	ハウス、食と農と環境教室	稲刈り等	農業体験
平成25年9月21日	白島商店会	稲刈り等	農業体験
平成25年10月12日	牛頭山登山		
平成25年10月13日	農産物市	野外活動センター オープンデー	
平成25年10月26日	柿もぎ体験と吊るし柿の作り方		
平成25年11月17日	ハウス、食と農と環境教室	収穫祭（餅つき等）	農業体験
平成25年11月23日	ゆずもぎ体験とゆず酢の作り方		
平成25年11月30日	漬物講習会		
平成25年12月7日	竹林整備と竹材加工講習会		(注)
平成26年2月15日	炭焼き体験		
平成26年3月8日	滝山登山		

(注) 開催日は変更する可能性があります。



黄金色になった小河内の棚田（三根集落、遠方は滝山） ハウス農業体験農場（手前水田とどンドン農園）

編集後記

秋になり、別表（上記）にあるように今年も小河内地区で、これから農業体験やツーリズム、農産物市等多くのイベントが開催される。ムラの人口はついに500人を切り、少子高齢化、人口減少、過疎化が急速に進むが、「源快集楽、小河内」のさとやまの魅力を求め、昨年度は人口を上回る750人余の都市住民が訪れた。資源観察会やツーリズムを始めて5年目、勿論初めて来た人もいるが、リピーター、小河内ファンも増えている。温泉も地図に載るような名勝史跡があるわけではない、こんなかた田舎だからこそ、生きる本物があるのかも知れない。生活の視点を変えれば、お金や便利さは浅くむなしさを覚える。厳しい時代を乗り越えて来た小河内の高齢者は生きる力（知恵や技）をつけた名人揃い、こうした知恵や技を都市住民に伝え、都市住民から新鮮な情報をもらう、このヒト、モノ、カネ、情報が循環する仕組みが定着すれば、小河内は元気になるはずだ。是非この秋も小河内へお出で下さい（S）